

生活介護事業所 「らっこかん」での実践

黒川冬喜子（株式会社 心泉 専務取締役）
竹内ふき子（CMU Holdings 学習支援員）

株式会社心泉

専務取締役 黒川 冬喜子

看護師 大学病院のNICU、小児科病棟の経験を活かし、医療的ケアの必要なご利用者様の支援にあたっています。

生活介護事業所らっこかん

東京都足立区に生活介護事業所
5事業所運営

定員20名の小規模事業所

知的、精神、身体、難病、
医療的ケア者の日中活動支援

誰もが楽しく幸せに、
そしてみんながほほ笑む場所
“らっごかん”（楽幸館）



Hさん

19歳 男性

医療的ケアの必要な

重症心身障がい者

呼吸器を装着

目の動きや、上肢を上げて意思

の疎通をはかります。

支援依頼のきっかけ

昨年2月の文部科学省委託事業の生涯学習報告会に参加。

学校で取り入れていたICT機器を活用しHさんの支援に活かしたいと思い依頼しました。

<支援の目的>

- ・ iPadとスイッチを使って活動の幅を広げる
- ・ 利用者さんとコミュニケーションをとる手段を増やす

<内容>

- ・ ピエゾスイッチをレンタル（NPO法人 ICT救助隊）
- ・ 視線入力装置の体験（株・アップイット）
- ・ 助成金を利用して購入するためのサポート

<ピエゾスイッチ>

- * レンタル (NPO法人 ICT救助隊)
 - ・ 在学中より経験済みであった。
 - ・ 譲り受けたものは破損があり、購入を検討。
 - ・ センサー部は手指の動きや腕の動きに合うものを見つける。
- * 事業所での活用
 - ・ 全体活動 <楽器演奏・意思表示・選択>
 - ・ 個人活動 <ポケモンGO >



<視線入力装置の体験（株式会社・アップイット）>

- ・活動の幅を広げる可能性があるがHさんの体力の消耗が否めない
 - ・セッティングの大変さから使い熟せるのか
（誰でも簡単にセットアップできる環境）
 - ・助成金での購入には申請が難しい
（障害の状態と使用目的）
 - ・高額であること
 - ・Hさんが今現在必要としていない
- * これらの理由で今回は購入には至りませんでした



<助成金を利用してICT機器の購入をするうえで>

1. 助成金額等の自治体による違いを確認

- ・ ピエゾスイッチ等

日常生活用具の給付 情報通信支援用具の枠

- ・ 視線入力装置・パソコン・ソフト等

補装具費の支給 重度障がい者意思伝達装置の枠

* 株式会社アップイットとの連携

購入する機器の相談と同時に申請の方法を相談

2. 障害の状態と使用目的

- 上肢機能

- 知的障害

文字、言葉の理解

- 社会参加の解釈

コミュニケーション支援としての役割

- 事業所で使用するものを個人で購入する

普段使っている機器を事業所でも使用する

3. 保護者との連携

- ・ 事業所で使用するものを個人で購入することへの保護者の理解が必要
- ・ 視線入力装置の体験時の同席
- ・ 活動支援の報告と感想
- ・ 助成金での購入申請手続き準備

4. 事業所での購入に助成金や補助金を

- ・ 事業所での活動に幅広く活用するため

活動の様子



<事業所としてのふりかえり>

- ・いつでもICT機器を取り入れた活動が行えるように職員がスイッチとiPadの設定や操作ができるようにした。
- ・利用者様同士の交流も深めることができた。

<今後に向けて>

- ・継続的にICT機器を活用することでご本人の可能性を最大限活かすことができ活動の幅を広げられると感じています。
- ・ICT機器を活かした生産活動も考えています。

<まとめ>

- 事業所、専門業者、保護者との連携
- 障害の特性にとらわれない取り組み、活動を見つける
→関わる人が多いことで、沢山の目で見ると、見つける
- やりたい事は意欲になり、楽しみながらできることは、継続につながる
- 次の活動に繋がる一歩であること
→ポケモンGOからつながる次は
- ICT機器の活用は未知であるからこそ可能性もまた無限である。多くの人に出会う機会があってほしい。